

ハンガリー国立フィル創立100周年記念コンサート

小林研一郎 指揮 ハンガリー国立フィル

ハンガリー国立フィルハーモニー管弦楽団



©山本倫子

ソリストたちが語る 円熟の巨匠 小林研一郎

82歳となり、今なお精力的な指揮活動を行う日本が世界に誇る指揮者小林研一郎。今回のハンガリー国立フィルのソリストであり、長年共演を重ねる千住真理子、仲道郁代に「マエストロとの共演の思い」について語っていただきました。

とめどなく溢れる「音楽の泉」



©Kiyotaka Saito (SCOPE)

いつのまにか弾かされてしまう不思議な力。

音が鳴り出すと、マエストロ・コバケンにしか許されない感動的現象が次々に起きる。それがコバケンのステージだ。その身体の内側から滲み出るオーラが、100人近いオーケストラの奏者と横に立って演奏する私を包み込む。マエストロの世界に入り込み、思わず知らず奏でてしまう不思議な感覚。マエストロからほとばしるエネルギーが私たちの心に火をつける。その存在、指揮台に立つだけで実際に感動が生まれるという稀なる指揮者、それを私たちは「カリスマ性」と言うのではないか。

年齢を感じさせない情熱のパワーは、マエストロの内側から湧き出る泉のようだとも思った。今なお多忙に活躍するマエストロが、例え疲れていようがいまが全く関係なく、その身体からは「音楽の泉」がとめどなく溢れ出てくる。泉はドクンドクンとダイナミックに脈を打ちながら、常に呼吸をしている生命体となって大きな渦をまく。生きている音。

生きている細胞。

生きているところ。

私たち奏者に生命を吹き込む魔法の棒を振りながら、この日もマエストロは炎となる。

千住 真理子

ベートーヴェンを演奏する時、思い出すマエストロの言葉



©Taku Miyamoto

ベートーヴェン「皇帝」の全ての音を熟知なさっている小林研一郎マエストロの造る音楽には、確固たる信念が感じられます。

その信念のもとで協働で音楽をつくることほど幸せなことはありません。

かつて「皇帝」をご一緒したとき、マエストロがオーケストラの皆さんに「ベートーヴェンの魂を受け止める姿勢で弾いて

ください」とおっしゃったことがありました。その瞬間からオーケストラの音が変わり、感動したことを覚えています。

ベートーヴェンを演奏する時、私はこの言葉を思い出しています。

ハンガリー国立フィルハーモニー管弦楽団とは、27年前に日本で小林研一郎マエストロや故エルヴィン・ルカーチ氏と初めてご一緒し、その後、ブダペストに招かれてリスト音楽院の美しいホールでも共演いたしました。今回は日本公演に先立ち、12月にもこのホールでハンガリー国立フィルと共に「皇帝」を演奏いたします。久しぶりの共演を、とても嬉しく思っています。

仲道 郁代

2023年1月16日(月) 19:00開演

ベートーヴェン: 「エグモント」序曲

ブルッフ: ヴァイオリン協奏曲第1番
(ヴァイオリン: 千住真理子)

ドヴォルザーク: 交響曲第9番「新世界より」

1月17日(火) 19:00開演

ベートーヴェン: ピアノ協奏曲第5番「皇帝」
(ピアノ: 仲道郁代)

チャイコフスキー: 交響曲第5番

サントリーホール (両日共)

\$14,000円 A11,000円 B9,000円 C7,000円 D5,000円(税込)

主催: ジャパン・アーツ 後援: 駐日ハンガリー大使館 / リスト・ハンガリー文化センター

お申込み / お問い合わせ: ジャパン・アーツぴあコールセンター 0570-00-1212 www.japanarts.co.jp

営業時間 10:00~16:00 火曜定休(変動あり) 年末年始休業: 2022年12月28日(水)~2023年1月3日(火)